

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2008に準拠して作成

血行促進・皮膚保湿剤

## ヘパリン類似物質外用スプレー0.3%「TCK」

《ヘパリン類似物質スプレー》

HEPARINOID

剤形	スプレー剤
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	1g中にヘパリン類似物質を3.0mg含有する。
一般名	和名：ヘパリン類似物質 洋名：Heparinoid
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日	製造販売承認年月日：2012年 8月15日 薬価基準収載年月日：2012年12月14日 発売年月日：2012年12月14日
開発・製造販売（輸入） 提携・販売会社名	製造販売元：辰巳化学株式会社
医薬情報担当者の 連絡先	
問い合わせ窓口	辰巳化学株式会社 薬事学術・安全管理部 TEL:076-247-2132 FAX:076-247-5740 医療関係者向けホームページ <a href="http://www.tatsumi-kagaku.com">http://www.tatsumi-kagaku.com</a>

本IFは2012年8月作成(第1版)の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

## I F 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I Fと略す）の位置付け並びにI F記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてI F記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会において新たなI F記載要領が策定された。

### 2. I Fとは

I Fは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はI Fの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたI Fは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

#### [I Fの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②I F記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

#### [I Fの作成]

- ①I Fは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②I Fに記載する項目及び配列は日病薬が策定したI F記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのI Fの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。

- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」（以下、「IF記載要領2008」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領2008」は、平成21年4月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

### 3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2008」においては、従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関でのIT環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

（2008年9月）

# 目 次

I. 概要に関する項目	1
II. 名称に関する項目	2
III. 有効成分に関する項目	3
IV. 製剤に関する項目	4
V. 治療に関する項目	7
VI. 薬効薬理に関する項目	8
VII. 薬物動態に関する項目	10
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	12
IX. 非臨床試験に関する項目	14
X. 管理的事項に関する項目	15
X I. 文献	17
X II. 参考資料	17
X III. 備考	17

# I. 概要に関する項目

## 1. 開発の経緯

ヘパリン類似物質は、血行促進・皮膚保湿剤であり、本邦では1954年に上市されている。ヘパリン類似物質外用スプレー0.3%「TCK」は、辰巳化学株式会社が後発医薬品として開発を企画し、薬発第0331015号（2005年3月31日）に基づき規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2012年8月に承認を得た。

## 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

○本剤はヘパリン類似物質を有効成分とし、血栓性静脈炎（痔核を含む）、血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結並びに疼痛）、凍瘡、肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防、進行性指掌角皮症、皮脂欠乏症、外傷（打撲、捻挫、挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎、筋性斜頸（乳児期）に効能を有する無色～微黄色澄明なローション剤である。

## Ⅱ. 名称に関する項目

### 1. 販売名

- (1) 和名：へパリン類似物質外用スプレー0.3%「TCK」
- (2) 洋名：HEPARINOID Spray 0.3%「TCK」
- (3) 名称の由来：一般名＋剤形＋含量＋「TCK」

### 2. 一般名

- (1) 和名(命名法)：へパリン類似物質 (JAN)
- (2) 洋名(命名法)：Heparinoid (JAN)
- (3) ステム：不明

### 3. 構造式又は示性式

該当しない

### 4. 分子式及び分子量

該当しない

### 5. 化学名(命名法)

該当しない

### 6. 慣用名、別名、略号、記号番号

なし

### 7. CAS登録番号

該当しない

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

帯黄白色の無晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

##### (2) 溶解性

水に溶けやすく、メタノール、エタノール(95)、アセトン又は1-ブタノールにほとんど溶けない。

##### (3) 吸湿性

該当資料なし

##### (4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

該当資料なし

##### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

水溶液(1→20)のpHは5.3～7.6である。

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

#### 3. 有効成分の確認試験法

局外規「ヘパリン類似物質」の確認試験法による。

#### 4. 有効成分の定量法

局外規「ヘパリン類似物質」の定量法による。

## IV. 製剤に関する項目

### 1. 剤形

#### (1) 投与経路

経皮

#### (2) 剤形の区別、規格及び性状

	ヘパリン類似物質外用スプレー0.3%「TCK」
剤形	スプレー剤
規格	1g中 ヘパリン類似物質 3.0mg
性状	無色～微黄色澄明なローション剤で、においはない

#### (3) 製剤の物性

#### (4) 識別コード

なし

#### (5) pH、浸透圧比、粘度、比重、安定なpH域等

本品1gに水40mLを加えたもののpHは5.5～7.5である。

#### (5) 無菌の有無

該当しない

### 2. 製剤の組成

#### (1) 有効成分（活性成分）の含量

1g中にヘパリン類似物質を3.0mg含有する。

#### (2) 添加物

カルボキシビニルポリマー、ヒプロメロース、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、トリエタノールアミン、メチルパラベン、プロピルパラベン

#### (3) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

### 3. 用時溶解して使用する製剤の調製法

該当しない

### 4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

## 5. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1)</sup>

加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヵ月）の結果、ヘパリン類似物質外用スプレー0.3%「TCK」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

試験条件：40℃、相対湿度75%、6ヵ月（ポリエチレン容器包装）

	規格	試験開始時	1ヵ月後	3ヵ月後	6ヵ月後
性状	無色～微黄色澄明なローション剤で、 においはない	無色澄明なローション剤で、 においはなかった	変化なし	変化なし	変化なし
確認試験	(1)～(4)	適	適	適	適
pH	(5)	適	適	適	適
定量 (%)	表示量の90～110% を含む	102.4 102.1 102.6	102.7 102.7 103.0	103.0 103.5 104.4	103.1 103.2 104.0

(3ロット、各ロットn=3)

- (1) 呈色反応：液の色は青色から直ちに赤紫色に変わる
- (2) 電気泳動：コンドロイチン硫酸Cナトリウムに対する相対易動度は1.07～1.16である
- (3) 沈澱反応（多糖類の確認）：液は白色の沈澱を生じる
- (4) 沈澱反応（遊離硫酸基の確認）：液は白色の沈澱を生じる
- (5) 本品1gに水40mLを加えたもののpHは5.5～7.5である

## 6. 溶解後の安全性

該当しない

## 7. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当資料なし

## 8. 溶出性

該当しない

## 9. 生物学的試験法

該当しない

## 10. 製剤中の有効成分の確認試験法

- (1) 呈色反応
- (2) 電気泳動
- (3) 沈澱反応（多糖類の確認）
- (4) 沈澱反応（遊離硫酸基の確認）

## 11. 製剤中の有効成分の定量法

吸光度測定法

## 12. 力価

該当しない

## 13. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

## 14. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当しない

**15. 刺激性**  
該当資料なし

**16. その他**  
該当しない

## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

血栓性静脈炎（痔核を含む）、血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結並びに疼痛）、凍瘡、肥厚性癬痕・ケロイドの治療と予防、進行性指掌角皮症、皮脂欠乏症、外傷（打撲、捻挫、挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎、筋性斜頸（乳児期）

### 2. 用法及び用量

通常、1日1～数回適量を患部に噴霧する。

### 3. 臨床成績

#### (1) 臨床データパッケージ（2009年4月以降承認品目）

該当しない

#### (2) 臨床効果

該当資料なし

#### (3) 臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

#### (4) 探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

#### (5) 検証的試験

##### 1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2) 比較試験

該当資料なし

##### 3) 安全性試験

該当資料なし

##### 4) 患者・病態別試験

該当資料なし

#### (6) 治療的使用

##### 1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

##### 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

## VI. 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ヘパリンナトリウム、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸 など

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序

該当資料なし

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績<sup>2)</sup>

##### 【生物学的同等性試験】

本剤と同一処方の試験製剤（ローション剤、0.3%）と標準製剤（ローション剤、0.3%）について、次のとおり生物学的同等性が確認されている。

##### (1) 紫外線紅斑抑制作用

試験製剤と標準製剤それぞれ200mgを塗布したモルモットを用いて、紫外線照射後の紅斑強度を測定した結果、コントロール群に比較して両製剤とも有意な紅斑抑制作用が認められた。また、両製剤間の効果に有意差は認められず、両製剤の生物学的同等性が確認された。

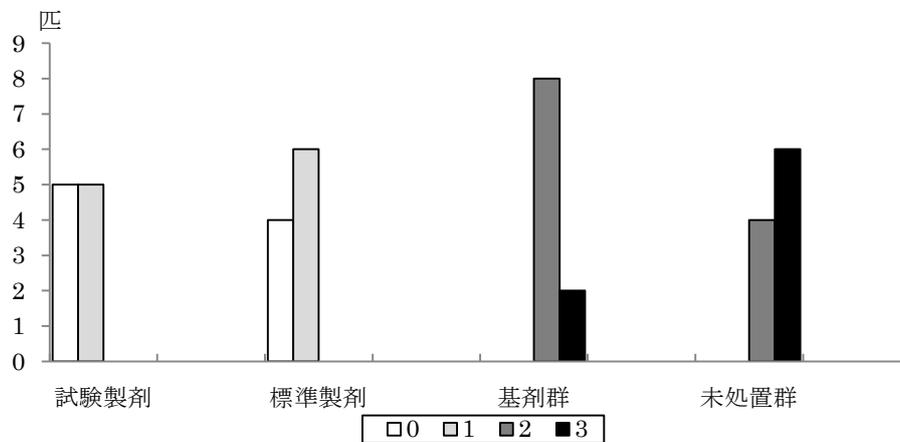
##### 紅斑強度判定基準

0点：紅斑なし

1点：わずかに紅斑が認められる

2点：明瞭な紅斑有り、しかし境界不明瞭

3点：紅斑の赤みが強く、境界明瞭



(各群 n=10)

## (2) 鎮痛作用

試験製剤と標準製剤それぞれ200mgを用いて、炎症性浮腫を惹起させたラットにおける疼痛閾値圧を測定した結果、コントロール群に比較して両製剤とも有意に疼痛閾値圧を上昇させ、鎮痛作用が認められた。また、両製剤間の効果に有意差は認められず、両製剤の生物学的同等性が確認された。

	疼痛閾値圧 (g)				
	注入前	30分後	60分後	120分後	180分後
試験製剤 (ローション剤、0.3%)	41.9±2.58	58.5±3.59 <sup>**,#</sup>	72.0±4.18 <sup>**##</sup>	68.0±3.45 <sup>**##</sup>	70.1±4.57 <sup>**##</sup>
標準製剤	43.4±2.99	58.2±3.13 <sup>**,#</sup>	71.7±4.52 <sup>**##</sup>	67.0±3.65 <sup>**##</sup>	69.5±3.82 <sup>**##</sup>
基剤群	42.5±2.89	48.6±3.33	53.2±2.62	50.2±3.27	52.5±4.18
未処置群	42.3±2.57	45.2±3.33	47.2±2.28	45.5±2.73	49.0±2.35

(Mean±S. E.、各群n=10)

\*\* : p<0.01 (未処置群との比較、t検定)

# : p<0.05    ## : p<0.01 (基剤群との比較、t検定)

## (3) 血液凝固抑制作用

試験製剤と標準製剤それぞれ3gを埋没させたウサギにおける血液凝固時間を測定した結果、コントロール群に比較して両製剤とも有意な血液凝固抑制作用が認められた。また、両製剤間の効果に有意差は認められず、両製剤の生物学的同等性が確認された。

	凝固時間 (秒)						
	投与前	2時間	4時間	6時間	24時間	48時間	72時間
試験製剤 (ローション剤、0.3%)	89.3 ±3.60	89.0 ±2.86	88.3 ±2.91	92.5 ±3.76	129.9 ±5.43 <sup>**##,††</sup>	123.7 ±5.72 <sup>**##,††</sup>	100.9 ±5.10 <sup>*</sup>
標準製剤	88.4 ±3.06	87.6 ±1.95	86.7 ±4.87	91.0 ±2.24	134.5 ±5.74 <sup>**##,††</sup>	122.6 ±4.60 <sup>**##,††</sup>	94.8 ±4.02 <sup>*</sup>
基剤群	91.4 ±3.06	87.6 ±2.42	89.3 ±3.91	89.8 ±3.95	91.5 ±3.16	90.0 ±2.90	93.2 ±3.38
未処置群	90.2 ±3.07	87.0 ±2.58	88.4 ±3.73	89.0 ±3.77	91.2 ±2.61	92.9 ±2.37	92.5 ±2.97

(Mean±S. E.、各群n=10)

\* : p<0.05    \*\* : p<0.01 (投与前との比較、t検定)

## : p<0.01 (未処置群との比較、t検定)

†† : p<0.01 (基剤群との比較、t検定)

## (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度  
該当資料なし
- (2) 最高血中濃度到達時間  
該当資料なし
- (3) 臨床試験で確認された血中濃度  
該当資料なし
- (4) 中毒域  
該当資料なし
- (5) 食事・併用薬の影響  
該当資料なし
- (6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因  
該当資料なし

### 2. 薬物速度論的パラメータ

- (1) コンパートメントモデル  
該当資料なし
- (2) 吸収速度定数  
該当資料なし
- (3) バイオアベイラビリティ  
該当資料なし
- (4) 消失速度定数  
該当資料なし
- (5) クリアランス  
該当資料なし
- (6) 分布容積  
該当資料なし
- (7) 血漿蛋白結合率  
該当資料なし

### 3. 吸収

該当資料なし

### 4. 分布

- (1) 血液－脳関門通過性  
該当資料なし
- (2) 血液－胎盤関門通過性  
該当資料なし
- (3) 乳汁への移行性  
該当資料なし
- (4) 髄液への移行性  
該当資料なし
- (5) その他の組織への移行性  
該当資料なし

## 5. 代謝

### (1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

### (2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

該当資料なし

### (3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

### (4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

### (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

## 6. 排泄

### (1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

### (2) 排泄率

該当資料なし

### (3) 排泄速度

該当資料なし

## 7. 透析等による除去率

該当資料なし

## VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当しない

### 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌】（次の患者には使用しないこと）

- (1) 出血性血液疾患（血友病、血小板減少症、紫斑病等）のある患者〔血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある。〕
- (2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者〔血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある。〕

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当しない

### 7. 相互作用

#### (1) 併用禁忌とその理由

該当しない

#### (2) 併用注意とその理由

該当しない

### 8. 副作用

#### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

#### (2) 重大な副作用と初期症状

該当しない

#### (3) その他の副作用

次のような症状があらわれた場合には、使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過 敏 症	皮膚炎、瘙痒、発赤、発疹、潮紅等
皮膚（投与部位）	紫斑

#### (4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

#### (5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

#### (6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

その他の副作用

次のような症状があらわれた場合には、使用を中止するなど適切な処置を行うこと。  
過敏症：皮膚炎、瘙痒、発赤、発疹、潮紅等

**9. 高齢者への投与**

該当しない

**10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与**

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。

**11. 小児等への投与**

該当しない

**12. 臨床検査結果に及ぼす影響**

該当資料なし

**13. 過量投与**

該当資料なし

**14. 適用上の注意**

**投与部位：**

- (1) 潰瘍、びらん面への直接噴霧を避けること。
- (2) 眼には使用しないこと。
- (3) 点鼻用として鼻腔内に使用しないこと。
- (4) 顔面、頭部等、吸入する可能性のある患部には注意して使用すること。

**15. その他の注意**

該当しない

**16. その他**

該当しない

## IX. 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

### 2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製剤：ヘパリン類似物質外用スプレー0.3%「TCK」 該当しない  
有効成分：ヘパリン類似物質 該当しない

### 2. 有効期間又は使用期限

使用期限：外装に表示（3年）

### 3. 貯法・保存条件

室温保存（「X. 管理的事項に関する項目 4. 薬剤取扱い上の注意点（2）」を参照すること。）

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### （1）薬局での取り扱いについて

該当資料なし

#### （2）薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）

1) 「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目 14. 適用上の注意」を参照すること。

#### 2) 【取扱い上の注意】

- (1) 使用後はきちんとキャップをしめ、なるべく涼しい所に保管すること。
- (2) 小児の手の届かない所に保管すること。

### 5. 承認条件等

該当しない

### 6. 包装

100g×10本

### 7. 容器の材質

容器：ポリエチレン  
管：ポリエチレン  
キャップ：ポリプロピレン

### 8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：ヒルドイドローション0.3%

### 9. 国際誕生年月日

### 10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造販売承認年月日：2012年8月15日

承認番号：22400AMX01348000

### 11. 薬価基準収載年月日

2012年12月14日

### 12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

**13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容**

該当しない

**14. 再審査期間**

該当しない

**15. 投与期間制限医薬品に関する情報**

本剤は投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

**16. 各種コード**

販売名	HOT番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
ヘパリン類似物質外用 スプレー0.3%「TCK」	122223401	3339950R1053	622222301

**17. 保険給付上の注意**

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

## **X I . 文 献**

### **1. 引用文献**

- 1) 辰巳化学株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 辰巳化学株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験)

### **2. その他の参考文献**

なし

## **X II . 参 考 資 料**

### **1. 主な外国での発売状況**

### **2. 海外における臨床支援情報**

## **X III . 備 考**

### **その他の関連資料**

なし



〒921-8164 金沢市久安3丁目406番地  
電話 (076) 247-1231 代表